

麦類（種子消毒）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名（商品名）	裸黒穂病	なまぐさ黒穂病	斑葉病	網斑病
キノンドー水和剤 40		●※	●※	
トリフミン水和剤	●	●	●	△
ベンレートTコート	●	●	●	
ベンレートT水和剤 20	●	●	●	
ホーマイ水和剤		●	●	

※：小麦登録、△：本指針には採用していないが登録がある

(1) 裸黒穂病、なまぐさ黒穂病、斑葉病
(生態と防除のねらい)

① 麦の病害は、種子伝染のみで他の伝染形態をとらないものが多い。従って種子消毒は最も効率的で省力的な防除手段であるので、必ず行う。

FRAC	農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名		
MO1	キノンドー水和剤 40	有機銅水和剤	普	小麦(大麦は未登録) 裸黒穂病に未登録
MO3 1	ベンレートTコート	チウラム・ベノミル粉剤	普	粉衣のみ
MO3 1	ベンレートT水和剤 20	チウラム・ベノミル水和剤	普	
MO3 1	ホーマイ水和剤	チウラム・チオファネートメチル水和剤	普	裸黒穂病には未登録
3	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	普	

(薬剤使用上の注意事項)

① 大型播種機を使用する場合、吸湿による目づまりを防止する意味で、ベンレートTコートが良い。

注) 本表での「普(普通物)」は、毒・劇物に該当しないものを指している通称として用いた。

麦類（害虫防除本田処理剤） 指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名（商品名）	アブラムシ類	アワヨトウ
スミチオン粉剤 2DL	●	
エルサン乳剤	△※	●※
スミチオン乳剤	△	●

※：小麦登録、△：本指針には採用していないが登録がある

(1) アブラムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① ムギクビレアブラムシは、3月末から増加をはじめ、4～5月にムギの葉上で繁殖し、出穂とともに穂にも多数寄生する。
- ② ムギヒゲナガアブラムシは出穂期頃から飛来、増殖し、主に穂に寄生し加害する。
- ③ 穂に寄生を認めたら、散布する。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
1B	スミチオン粉剤 2DL	MEP粉剤	普	

(2) アワヨトウ

(生態と防除のねらい)

- ① 葉に寄生を認めたら散布する。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
1B	エルサン乳剤	PAP乳剤	劇	小麦で登録
1B	スミチオン乳剤	MEP乳剤	普	小麦・大麦で登録
			普	麦類（小麦・大麦を除く）で登録

注) 本表での「普（普通物）」は、毒・劇物に該当しないものを指している通称として用いた。

麦類（病害防除本田施用剤）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名（商品名）	オオムギ縞萎縮病	コムギ縞萎縮病	さび病	うどんこ病	赤かび病	網斑病	黄斑病
硫黄粉剤50			●	●			
イオウフロアブル			●**	●	●		
コロナフロアブル			●**	●	●		
サルファーゾル			●**	●	●		
シルバキュアフロアブル			●※**	●	●	△	
石灰硫黄合剤			△	●	●		
ダコソイル	●	●					
チルト乳剤25			△※**	△	●	●	●
トップジンM粉剤DL					●		
トップジンM水和剤				△	●		
トップジンMゾル					●		
ミラビスフロアブル			△※**		●		
ワークアップ粉剤DL			△**	△	●	△	
ワークアップフロアブル			△**	△	●	△	△

※：小麦登録、**：赤さび病登録、△：本指針には採用していないが登録がある
さび病のチルト乳剤、シルバキュアフロアブルは小麦赤さび病で登録

(1) 黄斑病 *Pyrenophora tritici-repentis*

(生態と症状)

- ① 小麦に発生する。
- ② 葉上に初め黄褐色楕円形の白斑点を生じ、しだいに拡大して、灰褐色、楕円形ないし紡錘形の病斑となる。隣接する病斑は、融合して不整形を呈し、周辺部が淡黄色となり、葉先の部分から褐色に枯れる。
- ③ 前年の残渣が伝染源となる。種子伝染もするがあまり重要ではないと考えられている。
- ④ 罹病株の葉鞘および稈上に偽子のう殻を形成し、翌春に至って成熟した子のう胞子が飛散して、第一次伝染源となる。
- ⑤ 病斑上に形成された分生子が第二次伝染源となり、空気伝染により下位葉から上位葉へ広がる。

(防除)

- ① 田畑輪換や輪作を行う。
- ② 発生初期の農薬散布を行う。

農薬名		毒性	備考
FRAC	商品名		
3	チルト乳剤 25	プロピコナゾール乳剤	普 小麦

(薬剤使用上の注意事項)

- ① 生育期散布は適期を逸すると効果が劣るので、注意する。

(2) オオムギ縞萎縮病、コムギ縞萎縮病 オオムギ ; *Barley yellow mosaic virus* (BaYMV) , 小麦 ; *Wheat yellow mosaic virus* (WYMV)

(生態と症状)

- ① 土壌伝染性し、早春新葉の伸長開始後に発病する。

(防除)

- ① 薬剤の効果は不十分であり、麦種転換、品種転換で対応する。
- ② オオムギ縞萎縮ウイルスは小麦に、コムギ縞萎縮ウイルスは大麥にそれぞれ感染しないので、発生圃場では麦種を転換する。
- ③ 発生地域では次の抵抗性品種を栽培する。オオムギ縞萎縮病 ニシノホシ、サチホゴールデン。コムギ縞萎縮病 チクゴイズミ

農薬名		毒性	備考
FRAC	商品名		
MO5	ダコソイル	TPN粉剤	普 秋播栽培登録

(3) さび病、うどんこ病 *Puccinia* spp., *Blumeria* spp.

(生態と症状)

【さび病】

- ① 赤さび病は、ムギ収穫後のこぼれムギやひこばえの葉身上に形成された胞子層で越夏を行い、秋期に播種したムギの葉身上に飛散する。
ムギの葉身上に飛散した菌は、胞子層の形成や菌糸の形で越冬し、翌春の第一次伝染源となる。
- ② さび病の発生、蔓延の時期は一般に春期の節間伸長開始後で、黄さび病と小さび病が最も早く、赤さび病がそれにつぎ、黒さび病は遅れて後期に発病する。
- ③ 高温多照で病害の発生が助長される。
- ④ 窒素肥料の多施用は病害の発生を助長する。
- ⑤ 生育が良すぎたり、遅れた場合に発生しやすく、被害もひどくなる。

【うどんこ病】

- ① 第一次伝染源として、秋期に感染発病して形成された分生子や菌糸の形で越冬する場合と、子のう殻の形で越冬してから春に子のう胞子を形成する場合がある。
- ② 暖冬で曇雨天の多い年や、日陰で風通しの悪いところに発生が多い。
- ③ 生育が良すぎたり、遅れた場合に発生しやすく、被害もまたひどくなる。

(防除)

【さび病】

- ① 収穫後、速やかに完全反転耕する。
- ② 地域が推奨する施肥基準を参考に品種に応じた施肥を行う。
- ③ 発生初期から防除を行う。
- ④ 田畑輪換や輪作を行う。

【うどんこ病】

- ① 県奨励品種を利用する。
- ② 地域が推奨する施肥基準を参考に品種に応じた施肥を行う。
- ③ 発生初期または出穂初期から散布す
- ④ 同じ作用機構分類の農薬を連続で使用しないよう注意する。

農薬名		毒性	備考
FRAC	商品名 一般名		
MO2	硫黄粉剤 50 硫黄粉剤	普	
MO2	イオウフロアブル 水和硫黄剤	普	さび病は赤さび病登録
MO2	コロナフロアブル 水和硫黄剤	普	さび病は赤さび病登録
MO2	サルファーゾル 水和硫黄剤	普	さび病は赤さび病登録
MO2	石灰硫黄合剤 石灰硫黄合剤	普	さび病には効果が劣る
3	シルバキュアフロアブル テブコナゾール水和剤	普	小麦 さび病は小麦赤さび病登録、無人航空機登録あり
3	シルバキュアフロアブル テブコナゾール水和剤	普	大麦 うどんこ病のみ登録、無人航空機登録あり

(薬剤使用上の注意事項)

- ① 硫黄剤は残臭の恐れがあるので、たばこ畑周辺での使用を避ける。

(4) 赤かび病 *Gibberella zeae* など

(生態と症状)

- ① 病原菌は被害種子や被害残渣、あるいはイネの刈株に菌糸、分生子、子のう胞子及び子のう殻の形で付着または寄生して生存する。発病後は病斑上の分生子で伝染する。
- ② 播種後の幼苗に種子伝染または土壌伝染によって発病することがある。
- ③ 子のう胞子が空中を飛散して開花後の葯やえいの縁、気孔などから侵入する。
- ④ 感染は開花期から乳熟期が主であるが、菌の胞子形成、飛散は雨により助長されるので、この時期に曇天や降雨が続き、気温が20～27℃くらいの比較的高温になると激発する。

(防除)

- ① 裸麦および小麦では、開花最盛期から10日後までが最も感染しやすい。そのため、開花最盛期と7～10日後に2回薬剤散布を行う。なお、開花最盛期は、裸麦で出穂5～7日後、小麦で同7～10日後である。二条大麦では、葯殻抽出期（葯の出始め）にあたる穂揃い約10日後（出穂12～14日後）に散布し、2回散布する場合はその7日後とする。
- ② 降雨が連続する時は、雨の合間を見計らって散布する。
- ③ 罹病残渣は圃場外への除去やすき込みなどにより、圃場衛生に務める。
- ④ 非寄生作物との輪作を行う。

農薬名		毒性	備考
FRAC	商品名	一般名	
1	トップジンM粉剤DL	チオファネートメチル粉剤	普
3	ワークアップ粉剤DL	メトコナゾール粉剤	普
MO2	イオウフロアブル	水和硫黄剤	普
MO2	コロナフロアブル	水和硫黄剤	普
MO2	サルファーゾル	水和硫黄剤	普
MO2	石灰硫黄合剤	石灰硫黄合剤	普
1	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	普
1	トップジンMゾル	チオファネートメチル水和剤	普
3	チルト乳剤25	プロピコナゾール乳剤	普
3	シルバキュアフロアブル	テブコナゾール水和剤	普
3	ワークアップフロアブル	メトコナゾール水和剤	普
7	ミラビスフロアブル	ピジフルメトフェン水和剤	普

(薬剤使用上の注意事項)

(5) 網斑病 *Pyrenophora graminea*

(生態と症状)

- ① 宿主範囲は狭く、大麦だけに発生する。
- ② 種子伝染し、罹病種子を播種すると幼苗は10～15℃で多発する。
- ③ 発病は、下位葉から始まり、葉上に周縁不鮮明な褐色、紡錘形の病斑ができる。
- ④ 被害植物上で越冬した病原菌は、子のう胞子または分生子を形成し、第一次伝染源となる
- ⑤ 病斑上に形成された分生子が第二次伝染源となり、空気伝染により下位葉から上位葉、子実へ拡がる。

(防除)

- ① 種子は、採種圃等で生産された健全なものを使う。
- ② 田畑輪換や輪作を行う。

FRAC	商品名	一般名	毒性	備考
3	チルト乳剤25	プロピコナゾール乳剤	普	大麦

(薬剤使用上の注意事項)

- ① 生育期散布は適期を逸すると効果が劣るので、注意する。

注) 本表での「普（普通物）」は、毒・劇物に該当しないものを指している通称として用いた。